幼児・児童向け人権啓発アニメーション

ごめんね、ミーちゃん

上映時間 12分	[C#0713]
16ミリ版 136,500円（本体130,000円）	
ビデオ版 63,000円（本体 60,000円）	

制作意図

「いのちの大切さ」そして「相手を思いやる気持ち」。そんな当たり前のことが今、子どもたちの心から失われつつあります。

このアニメーションは、幼児・小学校低学年向けの分かりやすく心あたたまるストーリーの中で、どんな生きものにも尊いいのちがあること、それを大切にしなければならないのだということを、やさしく、そして力強く、訴えかけます。

東映株式会社 教育映像部
〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
http://www.toei.co.jp/edu/

幼児・児童向け人権啓発アニメーション

ごめんね、ミーちゃん

ストーリー

幼稚園児の大樹は、家で飼っている子猫のミーちゃんと大の仲良し。しかし一緒に遊んでいる様子は、まだ小さなミーちゃんには少し乱暴すぎるようだ。

ミーちゃんと一緒に公園に行った大樹は、ミーちゃんが勝手に歩き回って迷子にならないようにと考えて、首にヒモをつけてしまう。嫌がるミーちゃんをむりやり引っ張って道路を渡ろうとしていると、近づいたオートバイに驚いたミーちゃんが必死に逃げようとしてガードレールに激突し、ぐったりとなってしまう。

動物病院に運ばれたミーちゃん。助かるかどうか、明日にならなければ分からないと告げられた大樹は、その夜、不安な気持ちのまま眠りについた。

…ミャ～ン…。ミーちゃんの鳴き声に目覚める大樹。「ミーちゃん！」…しかしミーちゃんは何も答えずに去っていく。必死になってミーちゃんを追いかける大樹は、やがて不思議な森の中へと迷い込む。そこでは猫たちのひみつの集会が行われていた。

「お前はだれだ！」「あ、いつもミーちゃんをいじめていた子だ！」…口々に大樹を責める猫たち。「ちがう！ぼくはミーちゃんと遊んでいただけなんだ！」と言う大樹に、ボス猫はミーちゃんと大樹の様子を映したビデオを見せる。そこには、大樹にもてあそばれて怖がるミーちゃんの姿があった。「お前は遊んでいるつもりでも、ミーちゃんは怖かったんだ。つらかったんだ！」…ボス猫の言葉に何も言えない大樹。

猫たちの怒りはさらに高まる。「お前も同じ目にあわせてやる！」。猫たちは大樹を巨大な猫クレーンで吊り上げてしまう。泣きわめく大樹。「怖いよー、助けて、ママ！」…その声を聞いた瞬間、「もう止めて！」と叫ぶ猫がいた。それはミーちゃんの母猫だった…。

プロデューサー・・・川越　英一　　作画監督・・・野口　啓生
脚　　本・・・伊東　恒久　　美術監督・・・松宮　正純
監　　督・・・小島多美子　　音　　楽・・・伊藤　克己

制作協力・・・株式会社　ジェイ・シー・エフ

企画・制作・・・東映株式会社 教育映像部

2005年作品

P.

関東営業推進室　東京都中央区銀座3-2-17　〒104-8108　☎03－3535－3631
関西営業推進室　大阪市北区梅田1-12-6　〒530-0001　☎06－6345－9026
広島出張所　広島市中区八丁堀16-10　〒730-0013　☎082－511－2066
高松出張所　高松市本町11-7　〒760-0032　☎087－851－3766
福岡出張所　福岡市博多区中洲4-3-18　〒810-0801　☎092－262－3101

●お買い上げは……
㈱オプチカル　販売課 教育映像係
香川県高松市屋島西町2484-8
TEL 087-841-1100
FAX 087-841-1101